

健やかに生き、安らかな最期を

Living Will

2023年
7月発行

No. 190

リビング・ウイル

入会して少し
安心した気がします

鮫島有美子さん

ソプラノ歌手

- 新体制がスタート・新旧理事長挨拶
- 23年度事業計画・予算決まる
- 連載「四季の歌」夏の思い出



公益財団法人
日本尊厳死協会

JAPAN SOCIETY FOR DYING WITH DIGNITY



＝新体制がスタート＝

新理事長に北村義浩専務理事が就任

この10年、理事長として公益法人化や協会の体制整備などに取り組んできた岩尾總一郎(75)が6月に退任し、北村義浩(62)が新理事長に就任しました。新旧理事長がごあいさついたします。(新役員等名簿は5ページに掲載)

【就任にあたって】

——終末期医療を選べる
社会の実現をめざしたい

北村義浩 新理事長(前専務理事)



このたび公益財団法人日本尊厳死協会の理事長に就任しました北村です。東京大学医学部を卒業後、30年あ

まりウイルス学の研究に打ち込んでまいりました。縁あって岩尾總一郎・前理事長に終末期の医療の重要性

をご教示いただきました。いまは在宅医療を実践しつつ本協会の発展のために活動しております。岩尾前理事長のご尽力で本協会が公益財団法人に認定されたのを受けて、今後も終末期の医療をみなさんと一緒に向上させていきたいと願っています。

**尊厳死の考え方を広め
会員増へ**

コロナ禍に陥って、身近に死を感じる機会が増えたように思います。しかし、終末期の医療についての議論はまだ十分には深まっていない印象があります。人生の終末期における医療を、われわれひとり一人の事情に応じて選べる権利は「基本的人権」のひとつです。この権利が保障される社会の実現を目指し、従来にも増して活動してまいります。従来からの協会各支部主催の講演会・集談

会などをはじめ、公共メディアでの情報発信も拡大してまいります。これらを通じて、尊厳死の考え方とりビング・ウイルスの作成を広くお伝えし、会員増をめざしていきます。さらに会員の皆さまの終末期の相談も継続してまいります。

そうして会員の皆さまには、人生の最期を迎えた時、「いい人生だった」と満足して逝くことのできるよう努めてゆく所存です。さらに、「小さな灯台」プロジェクト等を通して、逝く人も見送る人も遺された人も強くサポートしていきたいと願っています。

3年後の2026年には本協会が創立50周年を迎えます。それまでに「終末期医療権」を国民の皆さまに広く理解していただき、国会で法律に明文化されるように取り組んでいきたいと思っています



2023年度
日本尊厳死協会役員等名簿

【顧問】	
牛尾治朗	ウシオ電機株式会社名誉相談役
奥田 碩	元トヨタ自動車株式会社社長
倉本 聡	脚本家・作家
小泉純一郎	元首相
鮫島有美子	ソプラノ歌手
吉永みち子	作家
【名誉会長】	
岩尾総一郎	医師、前日本尊厳死協会代表理事、元厚生労働省医政局長
【代表理事】	
北村義浩	医師、日本医科大学特任教授
【副理事長】	
長尾和宏	医師、長尾クリニック名誉院長
野元正弘	医師、愛媛大学客員教授
【専務理事】	
嵯峨祐治	本部事務局長
【理事】	
小川純人	医師、東京大学大学院准教授
上別府圭子	看護師、国際医療福祉大学大学院教授
川名理恵子	公益社団法人理事
神田 麻	弁護士、臨床検査技師
神馬幸一	獨協大学教授
田村幸代	会社代表、医療法人理事
土肥健太郎	弁護士、土肥法律事務所
満岡 聡	医師、医療法人満岡内科クリニック理事長
宮本礼子	医師、江別すずらん病院認知症患者医療センター長
【監事】	
大月将幸	弁護士、公認会計士
保尾福三	元会社役員
【評議員】	
井尾和雄	医師、医療法人社団立川在宅ケアクリニック理事長
伊勢田暁子	看護師、国会議員政策担当秘書
大瀧守彦	元ジョンソン・エンド・ジョンソン代表取締役
岡田就将	医師、東京医科歯科大学大学院教授
北村 聖	医師、公益社団法人地域医療振興協会顧問
城 祐一郎	昭和大学医学部教授
松隈知栄子	弁護士、松隈法律事務所
宮島俊彦	兵庫県立大学客員教授
【支部長】	
宮本礼子	医師、協会理事、江別すずらん病院認知症患者医療センター長(北海道)
阿見孝雄	元東北支部副支部長(東北)
杉浦敏之	医師、医療法人社団杉浦医院理事長(関東甲信越)
野嶋備平	中日新聞社事務局事業委員(東海北陸)
浦嶋偉晃	前関西支部事務局長、会社員(関西)
高橋浩一	医師、医療法人和会会折口医院院長(中国地方)
西口 潤	医師、医療法人社団愛和会あさひクリニック院長(四国)
満岡 聡	医師、協会理事、医療法人満岡内科クリニック理事長(九州)



17年から4年にわたり協会理事と外部専門家からなるLWの改訂検討会を設け、昨年、新しいLWとして皆さまにお示しすることができました。そのほか、本部業務を見直す中で、会員年齢による会費格差の廃止、会費徴収にかかる事務の煩雑さの解消、各支部で独自に発行していた会報の一元化、LW研究会の年次開催など、この10年間、協会の体制整備を図り、法制化を受け入れる素地を作っていました。次の世代では、これらの基盤をもとに活動をさらに推進していただきたいと祈念します。長い間、ありがとうございました。

【退任にあたって】

法制化を受け入れる 素地作りに取り組む

岩尾総一郎 名誉会長(前理事長)

理事長退任にあたり、ひと言ご挨拶申し上げます。

10年余にわたり務めてまいりました理事長の職を、今期で退くことといたしました。この間、会員の皆さまをはじめ、私を支えてくださった職員、関係者の皆さまに深く感謝を申し上げます。

前任の井形昭弘理事長は尊厳死の法制化について精力的に取り組んでいました。2003年12月に厚労相宛て請願書を提出し、翌04年5月に立法化請願国民署名運動を展開して、1年後に13万人余の署名を集めました。

た。この結果、05年4月に超党派の国会議員による「尊厳死法制化議員連盟」が組織され、12年5月には議連提案による「終末期の医療における患者の意思の尊重に関する法律案」が発表されました。尊厳死法制化の暁には、協会が、法律に定められるLW(リビングウィル)登録管理の受託法人として期待されます。

「公益」不認定を乗り越え

12年6月、このような状況下で私は理事長に就任しました。協会を法施行後の受託要件を満たす組織体制

とする必要がありました。そのため、理事と外部委員からなる基本問題調査会を立ち上げ、公益法人格の取得、LWの改訂、会員管理等の事務機能見直し、調査・研究活動、広報活動の強化を課題としてあげました。

公益法人化については内閣府に申請したものの、15年、17年と2度にわたり不認定処分とされました。協会はこれを不服として司法の場で争い、19年11月に高裁の勝訴判決が確定しました。その結果、協会は20年度より公益財団法人に生まれ変わりました。法制化後に具備すべきLWについては、



「インタビュー」ソプラノ歌手

鮫島有美子さん

インタビュー・構成／会報編集・郡司 武
写真／水村 孝
協力／東京ガーデンプレス



入会して少し 安心した感じがします

日本を代表するソプラノ歌手として、国内外で幅広く活躍する鮫島有美子さん。

尊厳死協会に10年ほど前に入会され、その後、ご両親を看取りました。その最期について、いささか悔いも残るといふ胸の内や、ヨーロッパと日本の「延命措置」に対する考え方の違い、さらには美空ひばりさんへの「オマージュ(敬意)」などについて語っていただきました。

——昨年発売されたCD「ひばりさんへのオマージュ」を、この間、車を運転しながら聴いていました。素晴らしいですね。美空ひばりさんとはまた違った、鮫島さんの歌の世界がありました。その話はあとでまたお聞きするとしまして、鮫島さん、今はずっと日本ですか。

鮫島 コロナになる前から、ここ8年くらいは日本ですね。それまではウィーンやドイツと日本とを行ったり来たりでしたが、母のこともありましたし、2015年に今の上皇陛下、上皇后陛下のお作りになった沖繩を思う「歌声の響」というCD付ブック(朝日新聞出版)の仕事も重なったりし

ましたので、ウィーンから日本に拠点を移しました。
——お母さんの介護などもあったわけですね。
鮫島 そうですね。介護というか、当時、父が亡くなり、母も年老いてきていましたから。ひとりっ子でもありましたし。

「最期はリンゴと ニンジンのジュースに 青汁を一杯」

——鮫島さんご本人は、2012年3月に尊厳死協会に入会されていますが、ご両親のことなどがきつかけになったのですか。

鮫島 突然入会したというわけで

はなく、それまで、管で繋がれた「スパゲッティ人間」のようになって生きていくことに対して、それはどうなんだろうとか、しばしば考えはいたんですね。そんな時にどこかでたまたま尊厳死協会の存在を知ったんです。いつなんどき何が起るかわからないわけで、尊厳死協会のカードを持っていればやがて役に立つのかな、と。入会して「これで少し安心した！」という感じがしたのを覚えています。

——そうでしたか。ひとりっ子であつたことも背を押したのでしょうか。
鮫島 そうかもしれませぬね。従妹や親戚はいますが、みんな私と同じ年代ですし……。自分のことは自分で考えないと、と。

もう30年以上前になりますが、母方の祖母が99歳10か月で大往生しました。日本に帰ってくるかと会って、亡くなる2か月前にも母と3人で祖母の部屋で会ったんです。頭ははっきりしていましたが、自分で食べることもできませんでした。行った時、大好きな重を半分ペロッと食べたのを見て、帰

り道、母と「あんなに食べて大丈夫かしらね」とびくりしたのを覚えています。子どもや孫、ひ孫と暮らしていて、自分で食べることもできる。そういう状態で少しずつ食べる量も少なくなり、やがて自宅で自然にさりげなく亡くなる——祖母はそのような最期でした。私も従妹たちも、そういう最期が「当たり前」のように思っていたんですね。

——それまで「死」に多く向き合ってきたわけではなかったでしょうし、特に当時は「当たり前」と思いますよね。

鮫島 今でも祖母の最期のあり方、存在は大きかったと思います。
——お父さんの最期はどんなでしたか。

鮫島 父も大往生でした。94歳。亡くなって9年になります。両親とも自宅に居たかったんでしょうけれど、いろいろ日々の生活に支障も出てきましたので、2人して同じ施設に入りました。「サ高住」といわれる3部屋ほどある施設。父はペースメーカーを入れていま

したが、それ以外は元気でした。

—— 鮫島さんも頻繁に帰国されて施設に向かったんですか。

鮫島 そうですね。最初は2、3か月に1度くらい帰国して会うという頻度でしたが、最期の頃は3週間に1度くらいでしたね。だんだん食べる量が減ってきまして、それも好きなものだけになり、最期はリンゴとニンジンのジュースに青汁を1杯入れるというような感じでした。それと生卵を1日に4個。軽くしょうゆを垂らして。そうするととろみが出て体に入りやすかったんでしょうか。固形物を食べると、むせたりしたようです。自分なりに調整していたんでしょうね。

—— karouじて生命を維持できる程度のもだけを、ご自分で判断して摂っていたということですね。

鮫島 そう思います。亡くなる1か月ほど前でしたか、施設の責任者の方が部屋にみえた時に、父は自分から「管に繋がれたようにして生きるの嫌だ」ってはっきり言ったそうです。それまでそんな

ことを話したことを聞いたことはありませんでした。

—— 最期が近づいてきていることがわかっていたんでしょうか。

鮫島 そうじゃないかと思えます。ですから施設の方からも「大往生でしたね」って言われました。私はイギリスで仕事があり、日本に戻ってきて、最期にぎりぎり間に合いました。

「3%にかけられるか悩んだ末での決断でした」

—— 残されたお母さんは、その後もその部屋に住まわっていたんですか。

鮫島 最初はそうでしたが、父より6つ下の母は、それまで気が張っていたんでしょうね、「しっかりしなくちゃ」と。その後、少しずつ認知症のような気配が出てきてまして、同じ施設の「介護棟」に移りました。飲み込む機能が衰えたり、膀胱炎にもなりました。車いすで外に散歩などはできませんでした。尿路感染症は凄く高熱になるんです。病院に運ばれて点滴を



「管で繋がれた状態で生きていくことに対して『それはどうなんだろう』とか、しばしば考えてはいました」

受けたり、寝たきりになって衰えた筋肉のリハビリもしましたが、母は「生命維持装置みたいなものに繋がれて生きていたくはない」という考えの人でした。

—— 言葉にして話されていたんですか。

鮫島 そうです。たぶん母は、そういうような話を父としていたんだと思います。娘である私とは離

れて暮らしていましたから「面倒は見てもらえないね」という前提で話していたのかもしれない。

私は1976年にヨーロッパに行き、そこで結婚し、ウィーンで暮らし、仕事もしていましたから。

—— 遠くに住む娘を思いながら2人でそう話していたのでしょうか。

鮫島 母は「延命措置は要らない」という一方で、「生きる」という

ことに関しては強い意思を持っていた人だと思えます。母はやがて、口からの栄養摂取が難しくなりましたが、意識ははっきりしていました。

る状態ではありませんでしたし、母も栄養補給だけのためにずっと入院していることもできませんから、新しく施設を探したんですが、鼻管栄養をしてくれる施設は多くないんです。胃ろうは多いんですけど。それでやっと思つて移ったんです。ですけど鼻管栄養は何年も管を入れておくようなものではないと言われ、とはいえ口から栄養を摂ることもできない状態がクリアになっていたので、いろいろお医者さんと話して「胃ろう」を選択したんです。あとで知ったんですが、胃ろうをしつつ、やがて回復して口からまた食べられるようになるのは、高齢者の場合わずか3%くらいらしいですね。その3%にかけられるか悩んだ末での胃ろうの決断でした。

—— 栄養はどういう方法で摂られていたんですか。

—— お母さんは、胃ろうについては、どう思っておられたのですか。

鮫島 病院で鼻管栄養でした。—— 食べ物をつまぐ飲み込めない場合などに一時的に行われるんですよね。

鮫島 鼻から管を入れての栄養摂取ですから、嫌がって管を抜いてしまったりするんですね。今思うと、鼻管を止めて、口から食べることだけを選択してあげたほうが良かったかな、と。そうしたら喉の機能も少しは回復して、自然な形での終わり方もできたのかな、と思ったりもします。

—— なるほど。難しい選択ですね。

—— お母さんは、胃ろうについて、

よう？

鮫島 その時は、あまり…（笑い）。母はその後、体が受けつけなくなり、胃ろうの分量も少しずつ減ってきて、父と同じように枯れるように亡くなりました。2019年、歳も同じ94歳でした。

—— そうでしたか。

鮫島 今思うと、鼻管を外して口からの栄養にもっていったらどうだったんだろうとか、後悔とか、母にとつて何が良かったのか、今でも思い悩むことはありますね。

「食べられなくなったら自然の摂理」

—— 最期のあり方については、ウーイーンなどではどうなんですか。

鮫島 母の亡くなる1年前に義理の母が亡くなりましたが、日本との違いはあまりにも顕著でしたね。点滴などをすれば少なくとも何か月かは元気に生きていられたと思うんですけど、基本的には「食べられなくなったら無理に栄養を入れることはしない」という考えです。

「ひばりさんは音域がすごく広いので、とても歌えない歌というのもあるんですよ」

理事長交代記念 講演会

理事長交代に伴い、日本尊厳死協会創立47年の歩みを振り返りながら、日本の終末期医療を取り巻くさまざまな問題、現況を語り合い、今後の協会の活動にどう生かしていくか、「現況から展望」をさぐります。女優の仁科亜季子さんをお迎えしての講演・座談会も。

日時 **2023年8月6日(日)**

午後**2時半～5時**

会場 **東京大学 伊藤謝恩ホール**

講演者 **岩尾總一郎** 前理事長

北村義浩 新理事長

仁科亜季子さん (女優)

総合司会 **安東弘樹** アナウンサー

参加費 **無料**

申し込み **不要** (直接会場にお越しください)

タイムスケジュール (予定)

2時半～2時40分	開会の挨拶
2時40分～3時10分	岩尾 前理事長 退任の挨拶と協会のあゆみ
3時10分～3時20分	北村 新理事長 新任の挨拶と協会の今後について
3時20分～3時40分	仁科亜季子さんの講演
3時40分～3時50分	休憩
3時50分～4時50分	仁科亜季子さんと 新旧理事長による座談会
4時50分～5時	閉会の挨拶

★録画した動画を後日、協会ホームページに掲載しますが、オンライン同時開催はいたしません。



さめじま・ゆみこ

東京生まれ。東京藝術大学声楽科、同大学院修了。1975年、二期会オペラ「オテロ」のデスデモーナ役でデビュー。ドイツを拠点にヨーロッパ各地で活動を始め、1982年、ドイツ・ウルム歌劇場の専属歌手に。1985年、初アルバム「日本のうた」を発売。1990年、NHK紅白歌合戦に出場。1992年から2008年まで日本の代表的オペラ「夕鶴」の「つう」を演じる。2009年と2019年の天皇陛下御在位20年記念式典と30年記念式典では「祝いの歌」と美智子皇后(現・上皇后)作曲の「おもひ子」を歌う。CDに「ザ・ベスト 鮫島有美子が歌う日本のうた」など多数。CDブックに「おもひ子」(マガジンハウス)、「歌声の響」(朝日新聞出版)、「美智子さまと星の王子さま」(文藝春秋)。

「1回洗い流して向き合われたんですね。」
 鮫島 そういうことですね。洗い流して洗い流せるもの、つまり私の世界が入る余地のあるもの、という歌を選んでくれたと思うんですね。ひばりさんは音域がすごく広いので、とても歌えない歌というものもあるんですね。ですからこの話が出たときに「とても無理」と思ったりもしました。
 — そういうことでしたか。

透き通った声で、ご両親の最期などについて語るのを聞きながら、鮫島さんのライフストーリーがくっきりと浮かび上がるようでした。99歳の祖母宅を訪れて母と2人で帰る際に交わす言葉や、「自分が死んだら、あなた一人になっちゃって可哀そうね」と娘を思いやる母の言葉、さらに美空ひばりさんを語る時の熱い思い……それらが、まだ残響のように耳に。
 会報編集・郡司 武

※ 鮫島有美子さんは6月から日本尊厳死協会の顧問に就任いたしました。

義父の場合、痰の絡まる咳をしていたんですが、痰の吸引もよほどでない限りしないんです。看護婦さんに「自分の力で痰を出す、ということにならないと体が良くありませんから」と言われました。びっくりしました。
 — 日本ではありえないですね。
 鮫島 そうなんです。それで最期はそこから退院して、自分の部屋で、食べる量もだんだん減ってきて、眠っているような状態になり、枯れるように亡くなりました。

「向こうは「延命措置」などは考えないのでしょうか。」
 鮫島 家族も誰もいっさい考えないですね。「食べられなくなったから自然の摂理」という考え方です。
「本能的な感情の入れ方とか声の使い方」
 — それで、美空ひばりさんですが、「オマーージュ」のCDは、どういう経緯で生まれたんですか。
 鮫島 たぶん、プロデューサーの方が、私が自分の世界を作れる曲

を選んでくれたと思うんですね。「柔」とか「悲しい酒」とか「みだれ髪」とか「車屋さん」とか名曲はたくさんありますけれど、それらはこのCDには入っていないんです。
 — 「越後獅子」から始まるのを聴いて、哀愁を帯びたストーリーから入るのか「なるほど」と半ば納得した気もしました。
 鮫島 小さいころからラジオでひばりさんの歌はすごく聴いていて、体に染みついてしまっていたんですが、今回、それをまず無くさなければ……。

「インタビューを終えて」
 鮫島 ひばりさんは、音楽に対する本能的な感情の入れ方とか感覚、声の使い方とか、ほんとに凄い人だったとあらためて思います。
 — なるほど。今日は、ご両親の最期について、終末期に対してのヨーロッパなどの考え方、さらに美空ひばりさんへの思いなど多岐にわたってお話をうかがいました。ありがとうございました。

収入減による活動制限のなか 改訂LWを掲げ普及啓発を推進



公益財団法人日本尊厳死協会の2023年度の事業計画および収支予算などが、3月4日にオンラインにて開催された理事会で決まりました。

2022年度の決算案は、6月10日に開かれたオンラインでの評議員会で審議され、了承されました。

岩尾總一郎理事長は、今年度について、「長引くコロナ禍で、リビング・ウィル(LW)の普及啓発活動が十分に行われなかったことや、会員の高齢化による死亡者数の増加などから、会員数が減少し、それによる収入減は協会活動を制限しかねない状況ではあるけれど、改訂したリビング・ウィルを高く掲げ、ラジオやSNS、ブログ、YouTubeなども活用した普

日本尊厳死協会の決算・予算書(要約) 単位：円 △はマイナス

科目	2022年度予算	2022年度決算	2023年度予算
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	131,930,000	122,714,500	122,375,000
受取寄付金	20,200,000	11,009,491	20,120,000
受取補助金等	3,420,000	0	0
雑収益	1,078,000	1,358,519	827,000
その他収益	13,000	11,128	12,000
経常収益計	156,641,000	135,093,638	143,334,000
(2) 経常費用			
事業費	150,695,000	167,910,932	185,589,000
管理費	24,129,000	21,573,007	19,859,000
経常費用計	174,824,000	189,483,939	205,448,000
当期経常増減額	△ 18,183,000	△ 54,390,301	△ 62,114,000
2. 経常外増減の部			
当期一般正味財産増減額	△ 18,183,000	△ 54,390,301	△ 62,114,000
一般正味財産期首残高	635,168,084	640,548,107	594,347,920
一般正味財産期末残高	616,985,084	586,157,806	532,233,920
II 指定正味財産増減の部			
特定資産運用益	1,000	28	1,000
当期指定正味財産増減額	1,000	28	1,000
指定正味財産期首残高	2,846,172	2,846,172	2,846,200
指定正味財産期末残高	2,847,172	2,846,200	2,847,200
III 正味財産期末残高			
	619,832,256	589,004,006	535,081,120

及啓発活動をいっそう加速していきたい」としています。

会員数の現況

2022年度末の会員数は8万7504人で、前年度に比べ6897人の減少でした。昨年は約6200人、その前年が約5600人の減少でしたから、会員数の減少傾向は続いています。その減少数6897人を各支部ごとに見ると、関東甲信越支部が3857人で半数以上を占めています。新入会者数は1847人で前年度の2159人に比べ312人の減少。

一方の退会者(死亡・会費3年未納除籍など)をみてみますと、8744人(前年度は8403人)でした。退会者が増え、新入会者が減っているための当然の会員数の減少といえます。

新入会者で最も多かったのは70歳代(約34%)で、ここ10年以上変わっていません。ちなみに次が80歳代、60歳代と続きます。5年

ごとの新入会者の平均年齢は1976〜80年は約57歳でしたが、2021年〜2022年には約72歳になっています。新入会者の高齢化が急速に進みました。ちなみに2017年から開始したWEB入会登録数が昨年は351人増えて1400人台に達しました。40代〜70代の入会が多く、徐々に若年層入会の効果が出てきています。

事業報告と計画

①LWの普及啓発事業、②登録管理事業、③調査研究及び提言事業、が事業の3つの柱。

①の活動は、コロナ感染症対策の基本的対処方針変更に伴う旅行や外食の拡大・回復と連動して、講演会やセミナー等への集合参加が戻ってきました。さらにオンラインを活用した活動は、ほぼ全組織が開催できるようになり、昨年度は講演会、セミナーおよび出席講座の総数は115回で参加者数が5592人(前年度は75回、

参加者数2041人)となりました。

メディア普及活動として、TBSラジオで冠番組「日本尊厳死協会プレゼンツ【MY LIFE! MY CHOICE!!】」をオンエアしました。また2023年5月号から1年間、「婦人公論」(中央公論新社)に「小さな灯台プロジェクト」の記事をカラー2ページで毎月掲載することが決定しました。この「小さな灯台プロジェクト」は、「ご遺族アンケート」の2019年〜2021年までの3年間を取り込み、ホームページで公開しています。

受容協力医師数は3000人を目標としましたが、年度末登録数は2021人で、前年度に比べ36人減。電話医療相談は受電件数が704件、相談件数が1868件(前年度は502件、1159件)でした。

②は「会員数の現況」を参照。③の活動として「人生の最終段階における臨床経過並びに死の兆候に関する研究」を東京大

学医学部老年病科と引き続き共同で研究。実施したアンケートを解析中です。

23年度予算

受取会費は、1億2237万円と前年度予算の約955万円減となりました。昨年同様、会員数の減少によるものです。会費を含めた経常収益は1億4333万円を見込み、経常費用2億544円を計上しました。6211万円の赤字予算編成となりましたが、引き続きリビング・ウィルの普及啓発の拡大、調査研究事業等に力を注ぐものです。

22年度決算

1818万円の赤字予算でしたが、5439万円の赤字となりました。前年度に続く大幅な会員数の減少によるものです。寄付も2000万円強を見込んだものの実績は半額の1100万円ほどにとまりました。

思いは同じ 仲間は全国に

LWのひろば

「LW」を大きな支えに

中村玉江 90歳 東京都

骨の悪性腫瘍「骨外性粘液型軟骨肉腫」により東大病院で大手術を受け約2年、介護制度の助けを借りながら、家の中を歩行車でやっと動ける不自由な一人暮らし生活です。1か月半の入院中、尊厳死協会の会員の方と知り合い、退院後もお手紙でのお付き合いが続いています。尊厳死のお仲間とは初めて知り合いました。

現在、3か月に1度、MRI検査をしています。不自由な一人暮らしで体力も気力も食欲も落ちてしまい、肉腫を抱えて生きていくのはとても辛いのです。検査のたびに娘が

仕事を休み、車いすタクシーを手配してくれませんが、容易なことではありません。希少がんのため東大の研究には少しでも協力しなければと思うのですが、もう生きる意味もわからず、ジワジワと弱っていく日々が辛いです。

そんな中、お届けくださる「リビング・ウイル」、とても嬉しく、心の頼りとして隅から隅まで読んでいます。戦争、大地震、貧乏を乗り越えて生きてきた生命、大切に精いっぱい生きていきます。会報188号のルポで紹介されていた神戸の関本雅子医師のテレビ番組を見ました。「医の役割は安らかな終末の環境をととのえること。患者のすることは精いっぱい生きること」とおっしゃ

っていました。私もそう思います。リビング・ウイルを大きな支えとして生きていきます。この手紙は、都内の娘を呼んでポストに出してもらっています。

尊厳死協会と献体に登録

関 伸夫 73歳 神奈川県

夫婦で30代で尊厳死協会に入会しました。私たち夫婦には何の抵抗もなかったのですが、同居していた私の両親に話したところ、父親から「俺は、そんな人殺しみたいなのは嫌だからな」と言われました。ところがその父が説明書を読んで、「いいな、これ」と母親も誘って2人で入会したのです。おかげで二人ともチューブにつながれることもなく平穏な最期を迎えることができました。

それからしばらく経ち、人生の大切なパートナーの妻に子宮がんが見つかりました。何の自覚症状もなく、わかった時はステージ4のB。2020年10月末に入院。1週間程度で退院の予定でしたが症状が進んで帰れなくなり、「家に帰りたい」という妻の希望を叶えるために主治医に相談しました。ソーシャルワーカー、地域の医師、ケアマネジャー

と時を過ごします。

安楽死を望んでいます

匿名希望 92歳 兵庫県

90歳を過ぎましたので、外出先で何が起こってもいいようにと常に日本尊厳死協会の会員証を持ち歩いています。先日、会員証を見ましたら2002年の70歳の頃に夫婦そろって入会していることをあらためて確認しました。

十数年前、夫が脳出血で意識不明になり、延命治療はお断りしました。しかし「餓死するのを見るに忍びない」との担当医の指示で、胃ろうの手術をして5か月間生き延びましたが、この5か月が、私にはとても無意味なものに思われました。今では本人や家族が望まなければ延命治療は拒否できるようになっているようですが、当時はそうではありませんでした。「私の希望表明書」は玄関に置いてあります。

日本では遠い先のことでしようが、私は、オランダなどで法的に認められている安楽死を望んでいます。誰にも会わず一人で死んでゆきたい者もいるということを知っていただきたいと思っています。

の協力のもと急いで介護ベッド、酸素発生器を準備して11月16日に退院。妻は「帰ってこられて嬉しい」「お風呂にも入れて気持ちいい」「幸せ」と言っていて、翌々日の早朝、亡くなりました。私は「良かった。少し遅れたら一生後悔するところだった」との思いでした。連絡した皆さんからも「言葉は選ばなくてはならないけれど、良かったですね」と言っていたいただきました。

山を眺め至福のひと時

岸 伸輔 83歳 栃木県

83歳の私が強く願っていることは、できるだけ長生きしたいということ。まずは米寿を目指します。あと5年です。そのためにしていることは、朝6時半、8時40分、3時のラジオ体操(日曜は6時半のみ)です。この体操は全身を動かし、普段動かすことのない個所を動かすことになるので、日本が世界に誇るべき運動だと思っています。次にしていることは健康診断で



夏雲、湧く!
山の端に夏雲が
もくもくと湧き、
稲穂がそよ風に揺れる
日本の夏。

す。年に1回、誕生日に合わせて市の指定する医療機関で、無料で「人間ドック」に相当する検査が受けられるのです。さらにはこの病院にはレストランが併設されており、そのレストランの北側の座席からは雄峰・男体山と日光連山が眺められ、コーヒーを味わいながら夫婦で至福のひと

お力をお貸しください!

会員の方々から「ひろば」への投稿やメールで、当協会の「PR不足が残念」といった声が届いています。「声かけに協力します」と申し出てくださいる方もおります。協会では入会勧誘のチラシ(写真)を用意しておりますので、送り先と枚数を協会本部までお知らせいただければ、すぐにお送りいたします。会員のみなさまのお力をお貸しください。



編集部より

- 投稿の募集 テーマは「私の入会動機」「一人暮らしの日々」など何でもけっこうです。600字以内で。掲載(写真含む)の方には図書カードを差し上げます。手紙またはファクス(03-3818-6562)、メール(info@songenshi-kyokai.or.jp)で。
 - 写真の募集 10月号に相応しい写真を。数年前の撮影も可。データをメール送信(アドレスは同上)、またはプリントを郵送してください。いずれも、協会本部会報編集部宛に、「ひろば投稿」と明記のこと。締め切りは8月15日です。
- ※ホームページにも掲載させていただきますので、ご了承ください。

季節を感じさせる1枚の写真と
懐かしい唱歌でつづるページです

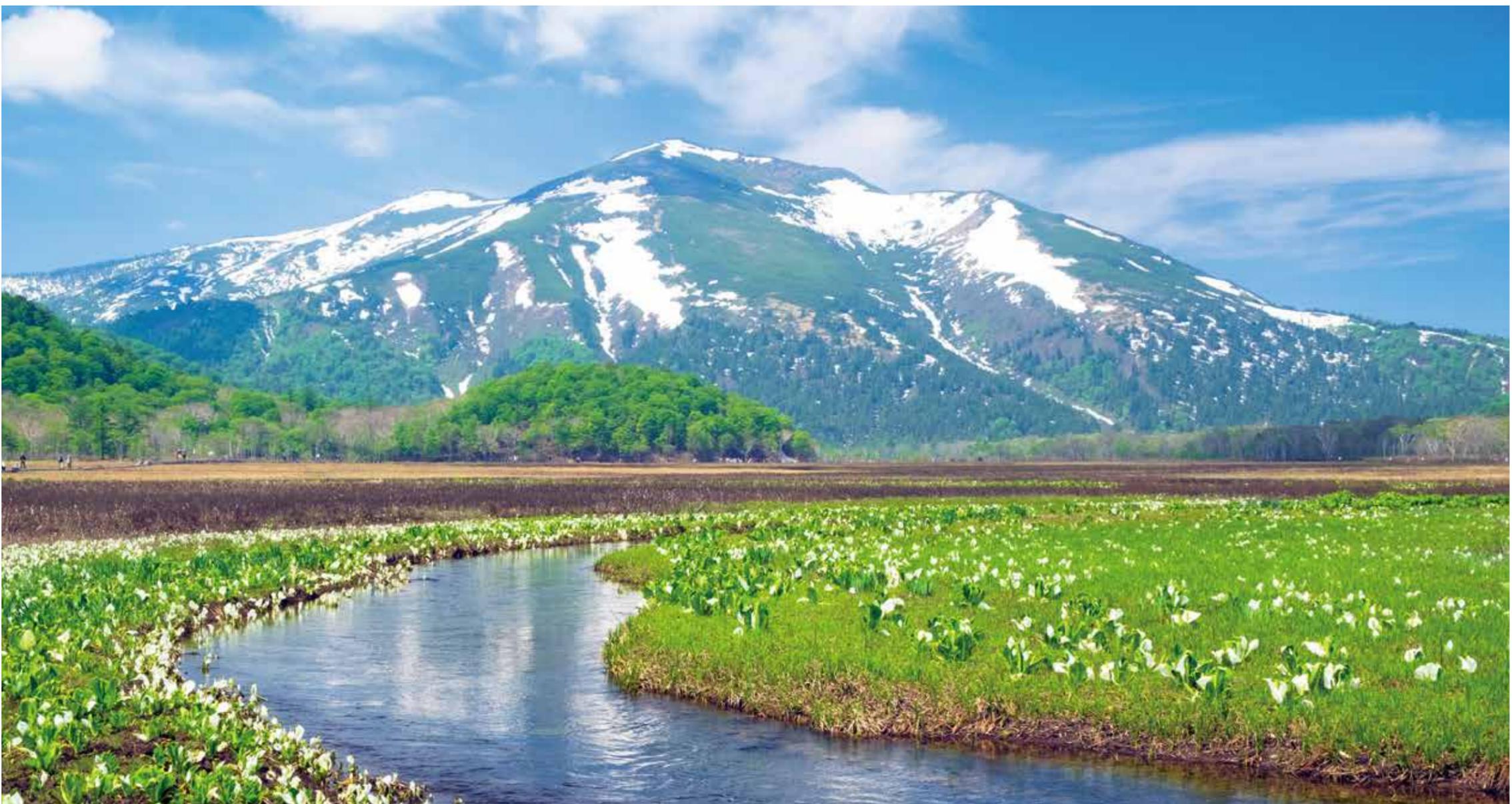
四季の歌

——その風景と背景

第二十五回

夏の思い出

江間章子 作詞
中田喜直 作曲



夏がくれば 思い出す

はるかな尾瀬 遠い空

霧のなかに うかびくる

やさしい影 野の小径

水芭蕉の花が 咲いている

夢見て咲いている水のほとり

石楠花色に たそがれる

はるかな尾瀬 遠い空

夏がくれば 思い出す

はるかな尾瀬 野の旅よ

花のなかに そよそよと

ゆれゆれる 浮き島よ

水芭蕉の花が 匂っている

夢見て匂っている水のほとり

まなこつぶれば なつかしい

はるかな尾瀬 遠い空

1949年にNHKラジオで放送され、尾瀬の名が全国に知られるきっかけとなった日本の歌曲。中学校の音楽教科書にもよく掲載され、戦後、多くの人に口ずさまれてきた。作詞の江間章子(1913〜2005年)は新潟・上越で生まれ、母の郷里の岩手・八幡平で10年間、少女時代を過ごした詩人。作曲は「ちいさい秋みつけた」や「雪の降るまちを」「めだかの学校」などでも知られる中田喜直(1923〜2000年)。浮き島とは池塘(高層湿原や泥炭地にある小さな池や沼)などに島のように浮かんでいる泥炭や枯草の塊のこと。池塘は尾瀬ヶ原だけで1800もあるとされる。

水芭蕉の花が尾瀬ヶ原を彩る、夏雲の湧く「はるかな尾瀬」の情景が、中田喜直のやわらかで爽やかなメロディーに乗って鮮やかに浮かび上がる。まさに夏が来れば思い出す、はるかな情景……。

東北支部

☎ 022-217-0081 ✉ tohoku@songenshi-kyokai.or.jp

第27回 東北支部「福島大会」& 「第9回 東北リビングウイル研究会」 医療や介護の根本には、心のふれ合いが ある、と思える講演&シンポジウム

第1部 ◎基調講演

テーマ「どのように生き、
どのような最期を迎えたいか」

講師◎ 太田宣承 (真宗大谷派碧祥寺住職、
社会福祉法人光寿会理事長)

第2部 ◎シンポジウム「生と死に向き合って」

座長◎ 佐藤富美子 (福島県立医科大学大学院
看護学研究科特命教授、東北支部理事)

シンポジスト◎

今田かおる (小川医院理事、東北支部理事)

楠 恭信 (長照寺住職、臨床仏教師)

鈴木牧子 (がんを考える「ひいらぎの会」代表世話人)

コメンテーター◎ 太田宣承

日程◎ 11月5日(日) 午後1時半～4時(開場1時)

会場◎ 福島市のコラッセ福島4階「多目的ホール」
(福島駅西口から徒歩3分)

福島市三河南町1-20

☎024-525-4089

定員◎ 事前予約・先着192人(無料、どなたでもどうぞ)

予約先◎東北支部ホームページまたは電話

☎022-217-0081 tohoku@songenshi-kyokai.or.jp

特報◎ 11月下旬、「動画録画」を東北支部

ホームページ、YouTubeで公開

[支部長から]

藤田紀子副支部長の急逝に心より哀悼 新しい支部理事を迎え充実した活動を

たいへんな驚きでした。藤田紀子副支部長が3月13日に急逝されました。当協会の活動に加え、弁護士業務はもちろん、多彩な趣味を生かした各種のグループ活動でも指導的なお立場として、ご逝去の当日まで大活躍でした。2月26日の「東北リビングウイル研究会」では総合同会を担当。コロナ禍の直前に支部理事から副支部長に就任。難しい時期を支えていただきました。伊藤道哉新副支部長(東北医科薬科大学医学部臨床教授)との「二人副支部長体制」となったばかりです。突然のお別れに呆然といたしました。これまでの長年のご尽力に心より御礼申し上げます。

この6月には、山形県で吉岡孝志氏(山形大学医学部臨床腫瘍学分野教授)、福島県では佐藤直氏(総合南東北病院外科医長)という、たいへん力強い新たな東北支部理事を迎えることができました。東北支部理事一同が協力し、会員の皆さまのお役にたつよう、いっそう邁進してまいります。(支部長 阿見孝雄)

第46回「仙台駅横 リビング・ウイル交流サロン」

日程◎ 7月21日(金) 午後2時～3時半(予定)

会場◎ 「せんだいアエル」6階 特別会議室
(JR仙台駅西口 徒歩3分)

テーマ「リビング・ウイルがある
——人生の最期がこんなに違う」

定員◎ 事前予約・先着20人(申込み順)、
参加費無料、どなたでもどうぞ。

新しいリビング・ウイルに代わってから、会員の皆さまの実際の体験や「アンケート調査」の答えが少し変わってきたように思います。たとえば、急な病状の変化により救急車で運ばれた場合。かつては、とにかく「延命措置」を施されたケースが少なくありませんでしたが、今は、当協会のリビング・ウイルを提示し、ご家族も本人のリビング・ウイルの意思を理解している場合には、「この病状では患者さんの意思を尊重しましょう」とたいへん丁寧な対応を受けた、との体験談を語られる方が増えました。「ご遺族アンケート」調査(2022年)では、リビング・ウイルの意思が「全く受け入れられなかった」との回答が、なんと「ゼロ」です。かつては数パーセントほど必ずあった「不本意な回答」がなくなっています。当協会のリビング・ウイルを持てば、人生の最期が変わってくる…。そのような社会が近づいてきたように思われてなりません。

リレーエッセイ

「LW(リビング・ウイル)のチカラ⑫」

自分は生かされている、と感謝

両親が比較的若く逝去した場合、父母の享年を己の寿命と考えてしまいがちではないでしょうか。岩手県の池田健支部理事(池田歯科医院院長)は、父の亡くなった65歳を己の寿命として生きてきましたが、その年齢を過ぎてみると、私は生きているのではなく、生かされているのではないかと思うようになった。入院した場合などを考えてみてください。私たちが無事に退院できたのは、当たり前ではなく運がよかったからかもしれません。実は、死神はいつもそばにいます。いつどうなるか分からない。そのように感じた時こそ、「リビング・ウイル」の出番ではないか、と話が進みます。

さらに、改訂された「新しいリビング・ウイル」は実によくできています、と納得の説明。「署名立会人」や「代諾者」の項目が、明確な形で新たに加えられたのは、いわばご家族とよく相談することが大事、との意味合いでもありましょう。この項目があることで、おのずと身近な人と話し合う、という行動に導いてくれるのです。

当協会の「リビング・ウイル」と当協会の存在は必ずや人生の一助になる、と実体験からの強いお勧めのエッセイです。

(新型コロナウイルス感染症の対応について)

新型コロナウイルス感染症がインフルエンザと同じ「5類感染症」に移行したことから、対応は個人や事業者の判断に委ねられることになりましたが、講演会や催し物などへご参加の場合、各支部の「お願い」にしたがっていただきますようお願いいたします。

北海道支部

☎ 0120-211-315 ✉ hokkaido@songenshi-kyokai.or.jp

講演会1(オンラインと会場)

北海道支部後援

日程◎ 7月22日(土) 午後2時～3時40分

テーマ「超高齢者の豊かな
最晩年をつくるために」

講師◎ 桑田美代子

(医療法人社団慶成会看護介護開発室長/
青梅慶友病院 看護部長)

申し込み◎ 北海道支部ホームページ(参加無料)

講師からひと言

青梅慶友病院(以下、当院)は許可病床数615床、入院患者の平均年齢は約91歳、平均在院期間4年5か月、9割が認知症を有し、9割が死亡退院する「終の棲家」の役割を担った療養病床です。「豊かな最晩年をつくる」を理念に掲げ、多職種チームでその実現に向けて様々な取り組みを実践してきました。それは死を見据えつつ、超高齢者の生を支えるためのケアです。

今回は、「食べる」と「動く」の2つに焦点を当て、これまでの実践を通し「超高齢者の最晩年の生を支えるケア」についてお伝えしたいと思います。

(北海道支部ホームページに全文掲載)

講演会2(会場のみ)

北海道支部主催

日程◎ 8月26日(土) 午後1時半～3時半

会場◎ 共催ホール(札幌市中央区北4条西
1丁目1 共催ビル6F)

定員◎ 600人

(申し込み不要、先着順、参加無料)

第1部

講演1◎「やすらかな最期を迎えるために」

宮本礼子(北海道支部長、江別すすらん
病院認知症疾患医療センター長、医師)

講演2◎「コロナ禍での最期～尊厳ある最期とは～」

田村麻由美
(株式会社ティ・エム代表取締役)

講演3◎「人生、後悔しないで生きる方法」
佐藤のりゆき(キャスター)

第II部 パネルディスカッション

座長◎ 西村正治(北海道支部理事、
北海道大学名誉教授、医師)

パネラー◎宮本礼子、田村麻由美、
佐藤のりゆき



宮本礼子さん 田村麻由美さん 佐藤のりゆきさん 西村正治さん

セミナー「リビング・ウイル作成講座」

日程◎ 8月8日(火) 10時～11時

司会◎ 宮本礼子(支部長)

講師◎ 岡田七枝(支部理事)

内容◎ リビング・ウイルの説明と質疑応答

対象◎ リビング・ウイルについて学びたい方
(会員、非会員を問わず)

定員◎ 100人(無料、先着順)

形式◎ オンライン(ZOOM)

申し込み◎ 北海道支部ホームページ(前日まで)

ホームページ動画セミナー 北海道支部オンライン講演会 (2023年4月22日)

テーマ「最後までその人らしく
生き切るために」

講師◎ 武田純子(認知症グループホーム
福寿荘総合施設長、看護師)

掲載場所◎ 北海道支部ホームページ

リビングウイユル懇話会 in 金沢

日程◎ 8月5日(土)午後2時～4時半
(受付開始午後1時半)
会場◎ 金沢市文化ホール3階 大会議室
(金沢市高岡町15-1)
JR金沢駅からバス15分
(駅前・東口3番・8～11番のりば
「南町・尾山神社」下車、徒歩3分)

テーマ「在宅での看取りについて」

講師◎ ① 南 英夫 (医療法人
社団悠輝会 理事長、
野々市よこみや
クリニック院長)
＝訪問【診療】の
立場から



② 宮崎敬太 (ソフィアメディ株式会社
ソフィアメディ訪問看護ステーション
金沢西 主任)
＝訪問【看護】の立場から

定員◎ 90人 (無料、事前申し込み不要)
※後日、当支部HPにて講演会の動画公開予定

交流サロン愛知
【My LIFE! My CHOICE!!】視聴会

事前申し込みですので、☎052-481-6501までご連絡ください。

日本尊厳死協会が、著名人を招いて人生の最終段階に関する経験や死生観などを語っていただくラジオ番組【My LIFE! My CHOICE!!】を視聴する第3回。今回は、今年4月以降に放送された安藤和津さん、中村雅俊さんらのうち協会HPアーカイブの中から1～3回分を選んで会場で上映いたします。

その後、支部理事を交えての意見交換会も実施します。会員以外の方も参加いただけます。ぜひお誘い合ってお越しください。

日程◎ 8月22日(火)
午後1時半～3時
会場◎ 青木記念ホール＝名古屋市中村区、
名古屋市営地下鉄東山線
中村公園駅から徒歩8分
定員◎ 20人 (無料)

新大阪の関西支部事務所は
6月末で閉鎖しました。

講演会や催し物などについては、今後は本部へお問い合わせください。支部理事はそのまま関西での活動を行っています。

今年は秋から対面での講演会や研究会を企画しております。HPや本誌でご案内していきますのでよろしくお祈りいたします。

11月4日(土)午後
堺市総合福祉会館大ホール

長尾和宏副理事長の講演とシンポジウムを企画中です。テーマや時間などの詳細は次号でご案内します。お楽しみに。

【新支部長ごあいさつ】(浦嶋偉晃)



この度、関西支部長を拝命いたしました浦嶋偉晃と申します。

2012年より理事として、長尾前支部長(協会副理事長)から、リビングウイユルとは何か?どのように普及啓発して

いけば良いのか、などについて多くの示唆をいただきました。

私は医療者ではなく、一般企業に勤務するものですが、20年前より市民活動として、特に終末期に関わってきました。まだ尊厳死に対して間違った解釈をされている方も多くおられますが、それがどう違っているのか、なぜ違っているのかが重要であり、その議論を多くの方々と巻き込んで行っていきたいと思っております。

まだまだ若輩者ですが、皆さまと一緒に進めていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

サロンin本郷

「尊厳死」や「リビングウイユル」について語り合しましょう。どなたでも参加できますが支部まで電話またはメールでご予約をお願いします。参加は無料です。

日程◎ 7月29日(土)、8月26日(土)、
9月23日(土) ※いずれも午後1時半～3時

会場◎ 支部事務所 文京区本郷2-27-8
太陽館ビル5階 日本尊厳死協会内
地下鉄丸の内線
「本郷三丁目」駅から徒歩1分
地下鉄大江戸線
「本郷三丁目」駅から徒歩3分

定員◎ 12人 (無料、予約必要、
定員に達した時点で申込終了)

千葉市公開講演会

日程◎ 7月9日(日)午後2時～4時
※開場1時30分
会場◎ 千葉市文化センター 5階(セミナー室)
千葉市中央区中央2-5-1
JR「千葉」駅東口
または京成「千葉中央」駅から徒歩10分

テーマ「現代医療のなかで
安らかに旅立つには」
～患者の死を家族が笑顔で
見届けられる医療文化をつくる～

講師◎ 杉浦敏之 (医師、
日本尊厳死協会関東甲信越支部支部長)
定員◎ 140人 (無料、予約必要、
定員に達した時点で申込終了)

地域サロンin宮前区

日程◎ 7月20日(木)午後1時半～3時
定員◎ 20人 (無料、予約必要、
定員に達した時点で申込終了)
会場◎ 川崎市宮前市民館4階 第4会議室
宮前区宮前平2丁目20番4
東急田園都市線「宮前平」駅から徒歩10分

地域サロンin江東区砂町

日程◎ 7月30日(日)午後1時半～3時
定員◎ 18人 (無料、予約必要、
定員に達した時点で申込終了)
会場◎ 江東区砂町文化センター 2階 第1会議室
江東区北砂5-1-7
「北砂二丁目」「北砂四丁目」
バス停から徒歩8分

地域サロン/オンラインサロン/
もしバナゲーム体験サロン

各地でのサロンやオンラインサロン、もしバナゲーム体験サロン等のイベントを企画しています。QRコードを読み取るとHPのイベントページで最新情報をご覧いただけます。ご参加をお待ちしています。



【新支部長ごあいさつ】(杉浦敏之)



埼玉県川口市で診療所を開業しております杉浦敏之と申します。この度、関東甲信越支部長を拝命いたしました。

2008年に高校の先輩でもある鈴木裕也先生(現支部顧問)からお誘いを受け、当協会に入会しました。その後「支部の理事をお願いしたい」と鈴木先生から電話があり、本郷の支部にお邪魔しました。

その時に前支部長である丹澤太良氏にお会いしました。初対面にも関わらず、大変気さくにお話しただいたことを覚えています。結局、鈴木先生と丹澤氏の人柄にひかれてすっかり支部の一員となり、少しずつ活動のお手伝いをさせていただくようになりました。

1988年に医師になってから、多くの患者さんの「死」を目の当たりにしてきました。特に1997年からさいたま赤十字病院に外科医として勤務していた時は、自分が守るべき家族を持っていたこともあってか、人の生死について深く考えるようになっていました。さらに2003年に開業し、在宅医療を行うようになってからは、「病院での死」と「自宅での死」の状況の違いにショックを受けました。

卒業後まもなく救急医療に身を投じて「1分1秒でも長生きさせる」ことに執心していた当時の自分が、患者さんやご家族のために本当に正しいことをしていたのだろうか、と疑問を持たざるを得ない状況となっていた時に鈴木先生に声をかけていただいたことは、今から思えば天の配剤であったのだろうと思っています。

これからは、会員の皆さまが自然な形で穏やかに人生を全うできるよう、そして、ご家族も後悔なく見送ることができるように微力を尽くしてまいります。よろしくお願いいたします。

【新支部長ごあいさつ】(満岡 聡)



この度、九州支部長を拝命いたしました日本尊厳死協会が会長の満岡聡です。会員歴は21年になります。支部理事でもない頃に地域で協会の宣伝をしていたら、当時の佐賀会長の太田善郎先生ご夫妻より依頼を受け、支部理事となり、2013年より佐賀会長となりました。

当時の九州支部は元九州がんセンター院長の太田光夫先生が支部長で、長崎は釘宮敏定元長崎大学心臓血管外科教授、鹿児島は納光弘元鹿児島大学病院長などそうそうたるメンバー構成で、一介の開業医

である私は小さくなっておりまして。釘宮先生の引退に伴い、後に九州支部長となった白髭豊先生を勧誘できたことは誇りに思っています。2017年12月、本部より長尾副理事長らが来られ、10年後の協会の在り方を検討する話し合いが佐賀、長崎の理事たちと行いました。それを受けて、今後の協会の運営に反映するため、2018年より本部学術研修担当理事を拝命し、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)に対応したリビング・ウィルの改訂を提案し、3年にわたる激論の末、現在の新しいリビング・ウィルを作ることができたことは幸いでしたが、今後の普及啓発が課題です。

九州支部長として今後、社会と価値観の多様化に対して対話を行いながら対応していきたくと思っています

【公開講演会 in 広島】

日程◎ 10月22日(日) 午後2時～4時(開場1時半)

会場◎ 広島国際会議場「コスモス」

広島市中区中島町1-5

☎082-242-7777

テーマ「平穏死のすすめ」

講師◎ 石飛幸三(医師、
関東甲信越支部顧問)

定員◎ 200人(事前予約、無料)

申し込み◎ 中国地方支部
ホームページまたは
☎0120-211-315



【新支部長ごあいさつ】(高橋浩一)



このたび、中国地方支部長を仰せつかりました医療法人和平会折口医院高橋浩一と申します。これまで2013年から理事をつとめてまいりました。職責が重くなりますが、可能な限り

取り組んでいく所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

当方は在宅緩和ケアに取り組んでおります。ぜひ知っていただきたい重要なことは、緩和ケアは「末期がん」に限定されるものではない、ということです。あらゆる方にいつかは最期の時は訪れます。そのときに痛い・苦しい、あるいは尊厳が踏みにじられる、というのはイヤですよ。実際に末期心不全も緩和ケアの対象疾患に加えられました。今後も対象疾患が増えることは間違いありません。

当院は認知症や老衰を含めすべての人に緩和ケアを提供しています。「すべての人に緩和ケアを！いつでも、どこでも、誰にでも!!」というキャッチフレーズを掲げてがんばっております。

医療法人和平会 折口医院 高橋浩一
info@origuchi-naika.jp

中国地方支部 活動報告

5月14日(日)、福山商工会議所会議室で「サロンin福山」を開催いたしました。身内の方をがんで亡くされ、その終末期に立ち会われた会員のお話には胸を打たれました。

最期まで痛み・苦しみが消されずに逝ってしまったことが自分の責任ではないかと、いまだに思い悩んでおられました。

新支部長の高橋浩一医師が参加され、現在ではモルヒネ等の医療用麻薬、鎮静剤、抗がん剤も発達し、昔ほど疼痛(がんによる痛み)に苦しむことは少なくなっている、との説明がありました。

【リビングウィル 香川懇談会】

日程◎ 9月10日(日) 午後1時半～3時

会場◎ 生涯学習センター まなびCAN

大研修室 高松市片原町11番地1

☎087-811-6222

テーマ「神経難病医療におけるACPの経験」

講師◎ 市原典子(高松医療センター 副院長)

対象者◎ 日本尊厳死協会四国支部・香川会員、
一般市民の方 ※ZOOMでのWeb配信も行います

定員◎ 90人(会場)

四国支部・香川では、9月10日(日)に懇談会を開催します。今回は、高松医療センター副院長の市原典子医師をお招きし、同センターの神経内科でとくにALSやパーキンソン病といった神経難病の方に対して実践されているACP(アドバンス・ケア・プランニング)の進め方や事例をお話ししていただきます。

会員の皆さんの関心の高い内容になりますので、ぜひご参加ください。

(香川代表 西口 潤)

●住所を変更された場合はお知らせください

施設などに移って住所を変更される方が多くいらっしゃいます。会報や年会費の請求書などが戻ってきてしまいますので、住所を変更された場合は、すぐに協会に電話かFAX、メールでご連絡ください。3年間、年会費の支払いが滞りますと「自動退会」となってしまいますので、お気をつけくださいますようお願いいたします。

人生の最終段階における医療選択のための意思決定支援サイト

「小さな灯台プロジェクト」ガイド



「尊厳ある最期」と「在宅看取り」を
かなえる「地域包括ケアシステム」



「地域包括ケアシステム」を「ご存じですか?」

退院して家に帰った時、どんな生活になるのかイメージできますか? 予想がつかず、ただただ怖く、在宅での看取りに躊躇する方も多いのが実情です。でも、一般の人が考える以上に「在宅医療」は手厚いサポートを受けられるので

す。それがわかる「看取りのエピソード」をご紹介します。

「尊厳ある最期を迎えたい」と願った時に、希望を理解し支えてくれる受容協力医師・看護師・ケア職との出会いが必要なことを、多くのご遺族アンケートによる「看取りのエピソード」は教えてくれます。在宅医療は、さまざま

まな専門職が「地域包括ケアシステム」の中で連携して支えてくれます。

上記のエピソードにも「毎日訪問看護に来ていただき心強かった」とあるように、患者家族の身近で話を聞き、病状を理解し経過観察をしていくのが訪問看護師です。多職種がうまく連携するためには、訪問看護師の調整力が重要で「在宅看取り」の鍵を握っているともいえます。

「看取りのエピソード」

最期は自宅で看取りましたが、退院時には本人をまじえて病院の医師・看護師・ケアマネジャー・ソーシャルワーカー！在宅訪問医師・訪問看護師・栄養士・訪問薬剤師などでミーティングを行ない、在宅でのケアプランを確認しました。介護は主に私がしていました。介護は主に私がしていました。介護は主に私がしていました。介護は主に私がしていました。

「協会からのコメント」

リビング・ウィルが明確なご本人、その意思をしっかりと代弁できる介護者、それをサポートする各種専門職たち……こんな体制がとれるのが「地域包括ケアシステム」の成果です。このようなシステムがあることをもっと多くの人に知っていただきたいと思っています。

【情報BOX】の最新情報「看取り期に事前に知って準備しておきたいことは?」をぜひご覧ください。訪問看護師が看取り現場の経験からお伝えしたいことを紹介しています。

女性総合誌「婦人公論」に「小さな灯台」のことがシンブルに

「婦人公論」5月号より1年間の連載広告を掲載中です。「尊厳死協会」の「小さな灯台」のことがシンブルにわかる内容になっています。

私の希望表明書 ①

【記入は任意です。書きたい時がきたら記入してください。迷う場合は書かなくてもよいです。】
リビング・ウイル3箇条に加え、私の思いや人生の最終段階における具体的な医療に対する要望にチェックを入れました。自分らしい最期を生きるための「私の希望」です。

記入日 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 本人署名 _____

希望する医療措置について

- 点滴 輸血 酸素吸入
 人工呼吸器装着 人工透析 抗がん剤 心肺蘇生 昇圧剤や強心剤

希望する栄養や水分補給

- 口から入るものだけを食べさせてほしい 状態に応じた少量の点滴
 胃ろうによる栄養 経鼻チューブ栄養 中心静脈栄養

緩和ケア

- 医療用麻薬や鎮静薬も使用して、痛みを感じることはないよう十分な緩和ケアを行ってほしい
 肉体的な苦痛だけでなく、精神的・社会的な痛みへのケアも行ってほしい
 私の死に直面し、喪失感と悲嘆に暮れる人々への精神的・社会的なケアを行ってほしい

意思の疎通ができなくなったとき

- リビング・ウイルと「私の希望表明書」だけでは判断しきれない場合は、私の代諾者や医療・ケアに関わる関係者が繰り返し話し合い、私の最善を考えてください
 私が少しでも意思表示をする場合は、その意図をくみ取る努力をお願いします

最期の過ごし方

- 場所**
 自宅(自分の家・子供の家・孫の家・親戚の家:具体的な名前 _____)
 自宅以外(_____)
 高齢者施設の居室 介護施設 病院 ホスピスや緩和ケア病棟
 分からない その他(_____)

誰と(ペットの名前を書かれても結構です)

1. _____
 2. _____
 3. _____

どのように

会報のメール配信登録のご案内

会報「リビング・ウイル」を メールマガジンとしてお送りしています

入会ご希望の方にお送りしております「入会のご案内」の中に、「リビング・ウイル—Living Will—」終末期医療における事前指示書—」があります。その記入欄に、「氏名」「住所」とともに、2017年7月改訂版からメールアドレスをお書きいただく欄を設けています。

お書きいただく方はまだ少なく、入会者の5割ほどにとどまっていますが、それでもメールアドレスの登録は1万件を超えました。「会報のメールマガジン配信」も2018年の会報7月号(6月25日配信)から開始いたしました。現会員の方で希望される方は、日本尊厳死協会のHP(ホームページ)からアクセスして、メールアドレスの登録を「メールマガジン登録」からお願いします。ご登録次第、配信を開始いたします。

発行の目的

会員が必要とする情報を逐次配信する連絡ツールとしても活用します

登録のメリット

協会から送られる情報を共有し、会報をいち早く読むことができます

発行日と頻度

会報は1月、4月、7月、10月の各1日発行の年4回ですが、メールマガジンは前月の25日ごろに配信します

料金

無料

会報をいち早く
読むことができます



ご寄付ありがとうございました (敬称略)

ご寄付いただきまして誠にありがとうございました。対象期間は、令和5年3月1日から5月31日までにご寄付いただいた方々です。職員一同深く感謝します。普及啓発事業等に有効に活用させていただきます。

菅崎 光子	5,000	塚田 福壽	5,000	小野 純子	6,000	匿名・東京都	50,000
佐々木 吉司	2,000	井上 初子	20,000	喜花 美鈴	100,000	匿名・東京都	16,540
佐藤 三千江	3,000	小野 千代子	8,700	坂本 一二子	10,000	匿名・東京都	10,000
伊藤 洋子	30,000	宮崎 典子	10,000	飯塚 ひろ子	10,000	匿名・神奈川県	10,000
濱田 美代	3,700	小林 芳江	10,000	深江 紀子	8,000	匿名・神奈川県	3,000
佐々木 宗彦	10,000	加瀬 雅子	8,700	尾場瀬 繁男	15,000	匿名・神奈川県	200,000
松川 孝好	2,000	坂本 眞貴子	2,000	新井 みどり	10,000	匿名・静岡県	10,000
川島 和平	30,000	鈴木 充子	10,000	佐和田 進	30,000	匿名・静岡県	3,000
犬塚 徹也	15,000	広川 ミエ	10,000	ペンネーム 「おいちゃん」	5,000	匿名・愛知県	5,000
大室 照子	10,000	有馬 久江	2,400	匿名・大阪府	900		
會澤 明雄	20,000	新井 朝子	3,740	匿名・兵庫県	10,000		
星野 英子	1,300	田代 美子	3,000	匿名・奈良県	100,000		
岩村 巖・麗子	4,000	渡邊 和子	10,000	匿名・広島県	10,000		
島田 治夫	2,000	久田 美奈子	10,000	匿名・福岡県	10,000		
豊島 治子	3,000	瀧 良三	100,000	匿名・北海道	10,000	匿名・宮崎県	20,000
青木 安子	3,000	加藤 イツ子	10,000	匿名・北海道	2,000	匿名・宮城県	30,000
依田 英子	30,000	富島 在子	50,000	匿名・北海道	10,000	匿名・愛知県	50,000
長屋 稔・トク子	100,000	土井 美代子	3,000	匿名・北海道	3,700	匿名・愛知県	50,000
高橋 實枝子	10,000	弘島 美代子	10,000	匿名・宮城県	30,000	匿名・愛知県	50,000
水口 慶子	10,000	山地 美恵子	10,000	匿名・福島県	3,000	匿名・愛知県	50,000
神田 強	30,000	大森 まさ子	3,000	匿名・埼玉県	3,000	匿名・愛知県	50,000
山内 俊捷・郁子	30,000	椎原 英造	10,000	匿名・埼玉県	8,000	匿名・愛知県	50,000
田中 登与子	100,000	後藤 美恵子	12,000	匿名・千葉県	100,000	匿名・滋賀県	500,000
飯塚 明光	10,000	竹本 清志	5,000,000	匿名・東京都	10,000		
高間 玲江	100,000	福間 喜世子	1,000	匿名・東京都	30,000		

多額のご寄付が寄せられました

兵庫県にお住まいの竹本清志さん(93)から500万円という多額のご寄付をいただきました。「尊厳死協会の会員数を増やし、協会が発展する活動に少しでも役立ててほしい」との趣旨です。あらためてお礼を申し上げます。

ご支援のお願い

1976年に設立された日本尊厳死協会は2020年4月、一般財団法人から公益財団法人に生まれ変わり、新しい時代を迎えました。これからも「尊厳ある死」の社会実現のためにさらなる活動を続けてまいります。会員のみなさまの年会費(2000円)で全ての活動費を賄うことは難しいのが現状です。さらにきめ細かな、会員のみなさまに寄り添った活動をおこなうためにも、ご寄付をお願いできればと思います。ご協力をお待ちいたしております。

公益財団法人への寄付金と会費は、特定公益増進法人への寄付金として、税制上の優遇措置があります。なお多額のご寄付をいただいた個人、法人には紺綬褒章の制度もあります。詳しくは協会のHP (<https://www.songenshi-kyokai.or.jp/>) をご覧ください。

お電話でもお問い合わせください。

リビング・ウイル受容協力医師

第112報

2023年3月～5月の間に新しく登録なされた医師の方々です。

内:内科 循:循環器科 呼:呼吸器科 消:消化器科 呼内:呼吸器内科 消内:消化器内科 外:外科 整:整形外科 小:小児科 放:放射線科 婦:婦人科 リハ:リハビリテーション科 皮:皮膚科 肛:肛門科 泌:泌尿器科 心内:心療内科 脳外:脳神経外科 緩:緩和ケア科 神内:神経内科 老内:老年内科 麻:麻酔科 精:精神科 肝内:肝臓内科 アレ:アレルギー科 脳内:脳神経内科

医療施設名	診療科	医師名(敬称略)	施設所在地	電話
木ノ内在宅クリニック	在宅・疼痛緩和	木ノ内 勝士	埼玉県桶川市下日出谷西3-14-13	048-778-9626
並木病院	内・脳内・循・呼・消・リハ	恵美 宣彦	愛知県名古屋市中天白区荒池2-1101	052-848-2000

【LW受容協力医師についてのご案内】

全国に2,000人以上が登録しているLW受容協力医師のお名前や医療機関名は、協会ホームページで閲覧することができます。都道府県を指定して検索する方法と、地図から検索する方法の2通りが可能です。紙に印刷したリストをご希望の方は、ファックスか郵便でお送りいたしますので、本部事務局までご連絡ください。

● LW受容協力医師をご推薦ください

会員のみなさまの不安として、周辺に受容協力医師がいないことがあるかと思えます。そうした不安を少しでも和らげるため、本部では、みなさまのかかりつけ医師をご紹介いただければ、その医師に「LW受容協力医師の登録」をお願いします。

会員の方の①お名前、②会員番号、③お電話番号、④かかりつけ医師のお名前(病院名)・住所・お電話番号を、本部「受容協力医師担当」まで、電話、ハガキ、手紙、FAXまたはメールでお知らせください。

当協会へのご寄付は、税額控除の対象となり 約40%が所得税額から控除されます。

〈ご寄付の方法〉

- 郵送先等 〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-8太陽館ビル501 公益財団法人日本尊厳死協会
- 銀行振込 三菱UFJ銀行神田支店 普通預金 0048666
- クレジットカード ホームページに、入力フォームがあります。
- その他 寄付専用の郵便振込用紙もあります。

電話、メール、FAX等でご請求いただければ郵送致します。

※ご寄付で「匿名」を希望される場合は、お名前と「匿名希望」を必ずお書き添えください。

医療相談
(通話無料)

0120-979-672

月・水・金曜日
午後1時～5時
(変更あり)

協会本部で、お電話お待ちしております。ご遠慮なく、どうぞ!

病気や気になる症状、特に終末期にかかわる不安や悩みについて、相談員(看護師)が丁寧にお聴きし、皆さま自身が主体的に考えて解決できるように支援しています。

医療相談は、協会が最も重視している会員向けの無料サービスですが、一般の方でもご利用いただけます。会員・未会員は確認させていただきます。お電話をお待ちしています。

協会宛メール([✉ info@songenshi-kyokai.or.jp](mailto:info@songenshi-kyokai.or.jp))でも受けつけております。

●本部

〒113-0033
東京都文京区本郷2-27-8
太陽館ビル501
TEL 03-3818-6563
FAX 03-3818-6562
メール
info@songenshi-kyokai.or.jp
ホームページ
https://www.songenshi-kyokai.or.jp/

●北海道支部

フリーダイヤル 0120-211-315

●東北支部

〒980-0811
仙台市青葉区一番町1-12-39
旭開発第2ビル703号室
TEL 022-217-0081
FAX 022-217-0082

●関東甲信越支部

〒113-0033
東京都文京区本郷2-27-8
太陽館ビル501
TEL 03-5689-2100
FAX 03-5689-2141

●東海北陸支部

フリーダイヤル 0120-211-315

●関西支部

〒669-1529
兵庫県三田市中央町15-43
たなかホームケアクリニック
なんでも相談所内
フリーダイヤル 0120-211-315

●中国地方支部

フリーダイヤル 0120-211-315

●四国支部

〒760-0076
高松市観光町538-2
あさひクリニック内
TEL 087-833-6356
FAX 087-833-6357

●九州支部

フリーダイヤル 0120-211-315

各支部HPへのアクセスは
本部HPからのリンクをご利用ください。

リビング・ウイル

—Living Will—

(人生の最終段階における事前指示書)
(2022年11月改訂版)

この指示書は私が最後まで尊厳を保って
生きるために私の希望を表明したものです。
私自身が撤回しない限り有効です。

- 私に死が迫っている場合や、意識のない状態が長く続いた場合は、死期を引き延ばすための医療措置は希望しません。
- ただし私の心や身体の苦痛を和らげるための緩和ケアは、医療用麻薬などの使用を含めて充分に行ってください。
- 以上の2点を私の代諾者や医療・ケアに関わる関係者は繰り返し話し合い、私の希望をかなえてください。

私の最期を支えてくださる方々に深く感謝し、その方々の行為一切の責任は私自身にあることを明記します。

リビング・ ウイルの勧め

日本尊厳死協会は、命の終わりが近づいたら延命措置を望まないで、自然の摂理にゆだねて寿命を迎えるご自分の意思を表した「リビング・ウイル」を発行、その普及に努めています。

現在約9万人の方々「リビング・ウイル」を持ち、安心して日々を送っています。自然のまま寿命を迎えることは、最期の日々をよりよく生きることであり、今を健やかに生きることにつながります。

お友だちやお知り合いに協会や「リビング・ウイル」のことをお伝えいただければと願っています。

事務局から 会費の自動払込のご案内 希望者はこちらご連絡ください

年会費払い込みには、自動払込制度(金融機関口座から自動引き落とし)があります。利用には諸手続きが必要ですので、ご希望の方は本部事務局までご連絡をお願いします。次の要領で実施しております。なお郵便局窓口では申し込めません。

- 対象 ▶ ご希望の会員
- 払込日 ▶ 会費払込該当月の28日(28日が土日祝日の場合は翌営業日に引き落とし)
- 払込額 ▶ 会費相当額
- 手数料 ▶ 1回の払込に165円(150円+税)のご負担があります
- 取扱金融機関 ▶ 国内ほとんどの金融機関(信金、信組、ゆうちょ銀行、農協含む)
- 領収書 ▶ 預金通帳の金額摘要欄に協会名を印字。領収書は発行しない

●なお、これまで同様、コンビニや郵便局での振り込みも可能です。会報が緑色のビニール封筒で届きましたら年会費の納入時期です。封筒の表に「年会費払込票在中」と印刷してあります。銀行振り込みの場合は会員番号(00を省く)も記入して下さい。なお振込手数料は郵便局窓口で通帳なら203円、郵便局ATMが152円、コンビニが110円です。



「稲穂立つ」
今号の1枚

私たちは、こうした「自然時間」の一方で「社会時間」も生きていきます。協会では10年ぶりに理事長が交代しました。8月には「交代記念講演会」も催され、女優の仁科亜季子さんを迎え、終末期医療を取り巻く「現況」から「展望」をさぐります。理事も刷新されました。顧問の扇景さんが3月に亡くなられたソプラノ歌手の鮫島有美子さんが新しく顧問に就任されました。時は移り、社会も変わります。協会も変わらなければなりません。(郡司)

※表紙の下方にQRコードを付けたので、ご利用下さい。

Living Will 目次

— 会報2023年7月 No.190 —

- 02 新体制がスタート
新旧理事長があいさつ
- 06 インタビュー
ソプラノ歌手 鮫島有美子さん
- 11 理事長交代記念講演会
- 12 23年度事業計画・予算決まる
- 14 LWのひろば
- 16 連載「四季の歌」夏の思い出
- 18 支部活動・報告
2023 夏～秋
- 23 「小さな灯台プロジェクト」ガイド
- 24 メール配信登録のご案内
- 25 私の希望表明書
- 27 連載・電話・メール医療相談から
- 28 LW受容協力医師のリスト
- 29 寄付された方々
- 30 事務局から／編集後記／目次
- 31 人生の最終段階における
事前指示書／本部・支部一覧
裏表紙 出版案内

協会会員：8万6766人
(2023年5月31日現在)

次号は、
2023年10月1日発行

※本誌記事の著作権は日本尊厳死協会にあります。引用、転載に関しましては当協会にご相談ください。

編集後記

●夏がやってきました。思い出すのは蚊取線香の「金鳥の夏」か「緑台のスイカ」か、はたまた「はるかな尾瀬」か。人それぞれでしょうが、山の端から夏雲がもくもくと湧き上がる光景をみると、漲る自然の大いなるエネルギーを感じるものです。今号の「四季の歌」は尾瀬をうたった「夏の思い出」。口ずさんでみてください。はるか遠く夏雲が浮かび上がってくることでしよう。

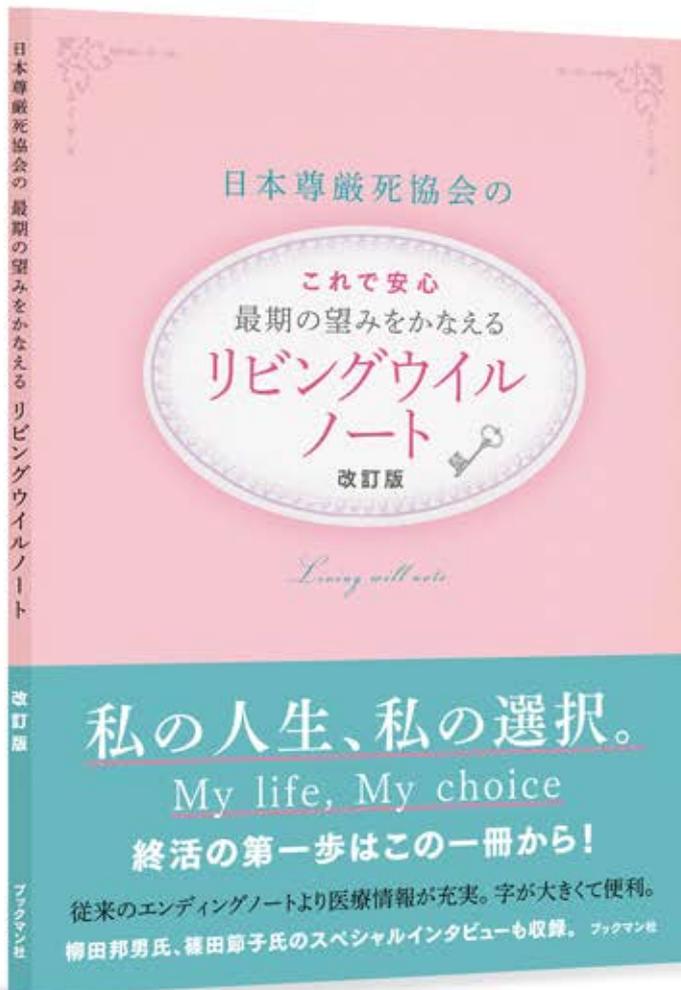
日本尊厳死協会の出版案内

好評
発売中!

最期の望みをかなえる

リビングウイールノート

最期まで「自分らしく生きる」がここに 있습니다。



主な内容

- 尊厳死協会の会報「Living Will」のインタビューに登場された作家の篠田節子さん、柳田邦男さんの名言を再録。
- 知っておきたい在宅医療の始め方、緩和ケアの大切さのほか延命措置やACP(人生会議)など医療情報の解説や尊厳死協会の役割、尊厳死と安楽死の違い、さらに「私の病気の記録」や「もしもの時の確認メモ」(健康保険証や基礎年金の番号など)、「終末期の最期の過ごし方の希望」「食べることができなくなった時の希望」……など、書き込むページや欄もたくさん詰まったエンディングノートの決定版。
- 「旅立ったあとで～大切な人へのメッセージ」や「旅立つ前に会っておきたい人」、「葬儀に呼んでほしい人」を書き込むリストの欄も充実

発行:ブックマン社
定価:1300円(税別) A4判104ページ

この「リビングウイールノート」には、
あなたの「リビングウイール」を入れるスペースがあります。
是非お手もとにセットで!!
もしもの時にそなえ、こころの「生前整理」を